

保護者・地域の皆様

関係各位

世田谷区立祖師谷小学校

校長 小俣 和也

令和7年度祖師谷小学校 学校関係者評価を受けて

令和8年度 学校改善方針

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

令和7年度の学校関係者評価結果に基づく報告書を受け、以下のように令和8年度学校改善方針をご報告いたします。

I 令和7年度 学校経営方針

【重点目標】

- 1 課題意識をもって考え、自分の考えを表現できる子どもの育成
- 2 互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成
- 3 自分の健康や体力に関心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

【信頼と誇りをもてる学校づくり】

- 1 保護者・地域との連携
- 2 学校運営及び教職員
- 3 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

II 令和7年度の成果と課題

上記について学校関係者評価、日々の教育活動での子どもたちの様子をもとに、成果と課題をまとめました。

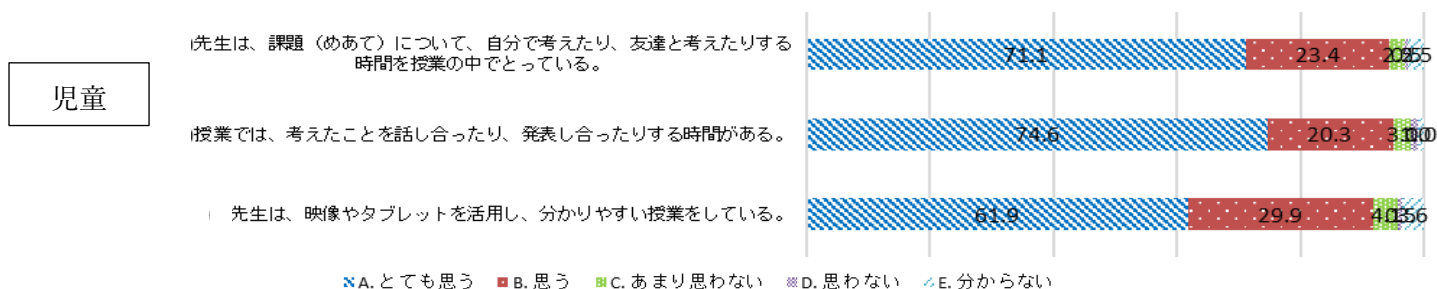
【重点目標】

- 1 課題意識をもって考え、自分の考えを表現できる子どもの育成

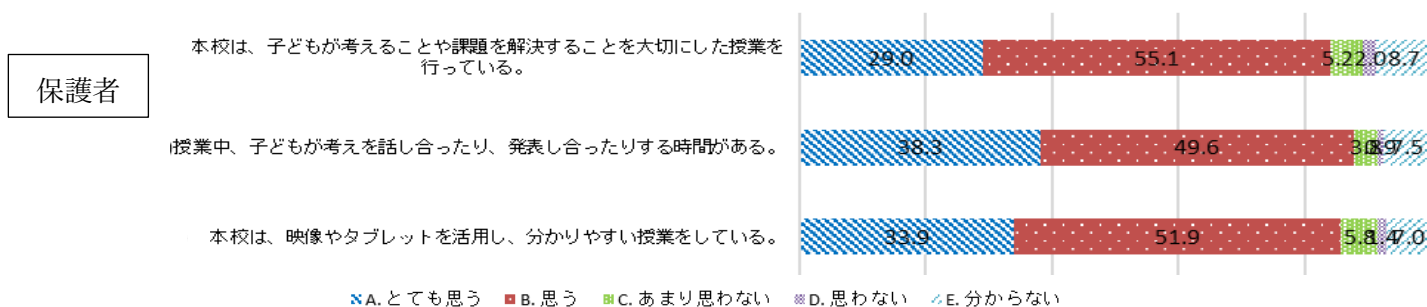
(成果)

主体的な学びを推進するために、子どもが学ぶことに興味をもち、課題を見だし、解決の方法を考え、協働して学び、学習活動を振り返り次の学習につなげられるような「探究の過程」を大切にしてきた。下にある高学年児童アンケートの結果から、子どもたちは授業の中で、「課題（めあて）」について自分で考えたり、友達と考え

たりする時間」や「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする時間」が確保されていることを意識しながら学習に取り組んでいることが分かる。また、教員が「映像やタブレットを活用し、わかりやすい授業」をしていることについても、肯定的な回答が多く、教員の授業改善に対して評価をしていることが分かる。

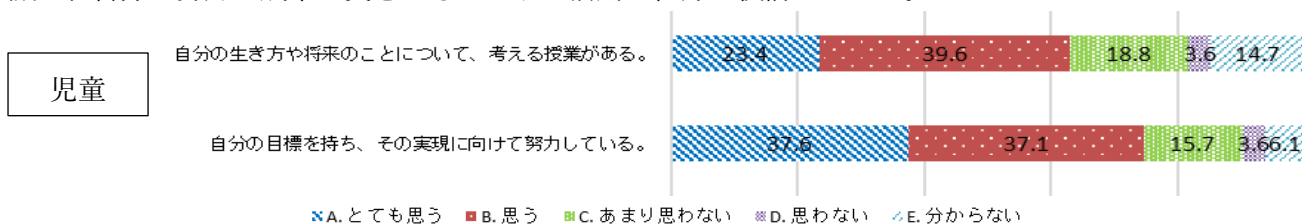


また、保護者の皆様からのアンケートでも、「子どもたちの課題解決に向けた授業が行われている」、「子どもに発言や発表の機会を十分に与えている」、そして「ICT 機器を適切に使い、わかりやすい授業を行っている」という評価をいただいている。

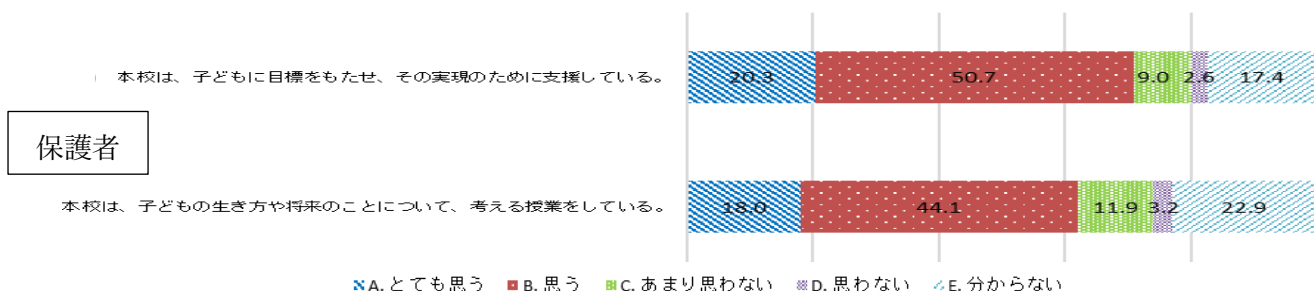


(課題)

一方で、子どもたちが自分たちの生き方や将来のことについて考えるキャリア教育の捉え方において課題が残った。本校では、子ども一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成することを目標としている。そのために、「本物に触れる」を合言葉に、ゲストティーチャーや校外学習を計画・実施してきた。しかし、それらが子どもたちにとって「自分たちの将来に関すること」という意識で学ぶための指導・支援が足りなかった。また、自分たちの目標をもち、その実現に向けて努力するために「キャリア・パスポート」を活用しているが、今後は更に、子どもたちが自分の目標を明確に意識し、自分の努力の成果を実感できるような活用の仕方を検討していく。



「キャリア・パスポート」は保護者にも回覧しコメントをもらうので、学校とご家庭の連携強化にもつなげ、より一層本校のキャリア教育にご理解とご協力を賜り、子どもたちの未来を一緒に考えていく体制を構築していきたい。



2 互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成

(成果)

本校では今年度、世田谷区の施策でもある「インクルーシブ教育」を推進するため、通常学級、ぼぶら学級、通級学級の教員等と一緒に夏休みに校内研修を行った。また、お互いの授業を参観し合い、そこで指導方法や指導観を共有しながら研鑽することができた。校内の表示や掲示物、教室内の机の配置、今年度から登用したインクルーシブ支援員による支援など、多様な個性を認め合い、相手を尊重し、共に学び共に育つ教育の推進を行った。

また、教育活動全体を通じて道徳性を養ってきた。2月に行われた道徳授業地区公開講座では、本校がどのように道徳の授業を行っているか、ご家庭で子どもと話していただきたいことも同時にお伝えすることができた。

さらに、命を大切に作る心、思いやりの心などの醸成を図るため、講師をお招きし、ペットをテーマとして、「命」について考えるピアノコンサートを行っていただいた。子どもたちにとって自分の考えを深める時間となった。

最後に、本校では異学年交流、通常の学級と特別支援学級との交流等を通じて、温かい人間関係を深めることをねらいとしている。月に一度のペースで行うフレンドリータイムでは、6年生が見事なリーダーシップを発揮し、楽しく、仲良く、全学年の子どもたちが一緒に遊ぶことができた。特別支援学級の子どもたちが、通常の学級の授業や朝の会に参加したり、給食と一緒に食べたりする交流活動も継続的に行っている。子どもたちはお互いの状況をよく理解し合い、支援が必要な場合は快く支え合えるような良好な関係を築けている。

(課題)

いじめ防止教育年間計画を基に年間を通していじめ防止教育を推進してきた。年3回の「ふれあい月間」には学校生活アンケートを実施し、気になる子には面談を実施した。それでも、子ども同士のトラブルは絶えず起こるし、いじめに発展する可能性もゼロではない。今後も確実にこれらの取組を実施するとともに、いじめの早期発見に努め、組織で対応し早期解決を図っていく必要がある。子どもたちの些細な変化も見落とさず、発達段階とともに様変わりする人間関係をより良い方向に導いていく姿勢は変えてはならない。

3 自分の健康や体力に関心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

学校関係者評価にはこの領域に関する質問項目がないため、「東京都児童・生徒体力・運動能力」の結果から成果と課題について考えた。

(成果)

体力・運動能力の全ての種目について調査を行い、結果を分析した。以下の表は、東京都の平均と本校の数値を比べた結果、東京都の平均値よりも上回っている種目についてあげたものである。昨年と比較するため、昨年のデータも載せている。

調査種目：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、

ソフトボール投げ 計8種目

<令和6年度>

学年	上回っている種目	学年	上回っている種目
1年男子	なし	1年女子	立ち幅跳び
2年男子	長座体前屈・50m走・ソフトボール投げ	2年女子	50m走
3年男子	なし	3年女子	なし
4年男子	長座体前屈・50m走	4年女子	50m走
5年男子	長座体前屈	5年女子	なし
6年男子	なし	6年女子	なし

<令和7年度>

学年	上回っている種目	学年	上回っている種目
1年男子	なし	1年女子	上体起こし・長座体前屈
2年男子	上体起こし・長座体前屈	2年女子	上体起こし・長座体前屈
3年男子	ソフトボール投げ・上体起こし・長座体前屈	3年女子	上体起こし
4年男子	上体起こし	4年女子	上体起こし
5年男子	上体起こし・長座体前屈	5年女子	上体起こし
6年男子	上体起こし	6年女子	上体起こし

上表の通り、東京都平均と比べると、本校の児童の体力の平均は下回っている種目の方が多いという結果になっている。しかし、昨年度に比べると、上体起こしや長座体前屈が平均を上回る学年が増えている。これは、昨年度年間を通じて、家庭でできる運動「そしやエクササイズ」に取り組んだ成果であると考えられる。

(課題)

運動種目について体力値を測定するだけでなく、あわせて児童の意識や生活習慣にもアンケート調査を行った。それらの結果を分析した結果、これからの課題が見えてきた。体力の総合評価がD・E層の児童における意識・生活習慣の特徴は、以下の通りである。

- ・運動実施頻度が少なく、実施時間も短い。
- ・睡眠時間が短い。
- ・朝食を毎日食べない割合が高い。
- ・テレビ等の視聴時間が長い。

運動実施頻度や実施時間が少なければ、必然的に体力値の向上は見込めない。また、児童の運動実施を阻害している大きな要因が朝食を食べていない、睡眠時間が短い、テレビ視聴時間が長いことであるとも言える。学校として「早寝、早起き、朝ごはん」やテレビ視聴時間に対する注意喚起を行っているが、ご家庭でもこれらの関係性を一緒に考えられることを願っている。

来年度、本校では以下の3点についてより一層改善していく。

①体育施設の有効活用

日常的に運動に親しめる環境を整備し、学習活動に活用していく。豊富な固定施設、広い校庭、体育館や屋上といったスペースだけでなく体育用具の充実や魅力的な運動の場づくりを通して児童の運動欲

求を充足させていく。

②健康教育の推進

養護教諭、栄養士と連携を図り、保健教育と食育の充実を図っていく。

③体力向上の取組

2学期は「短なわ旬間」、3学期は「ペースラン旬間」、年間を通して「長なわプロジェクト・そしがやエクササイズ」を設定し、全校児童でその活動に取り組む。

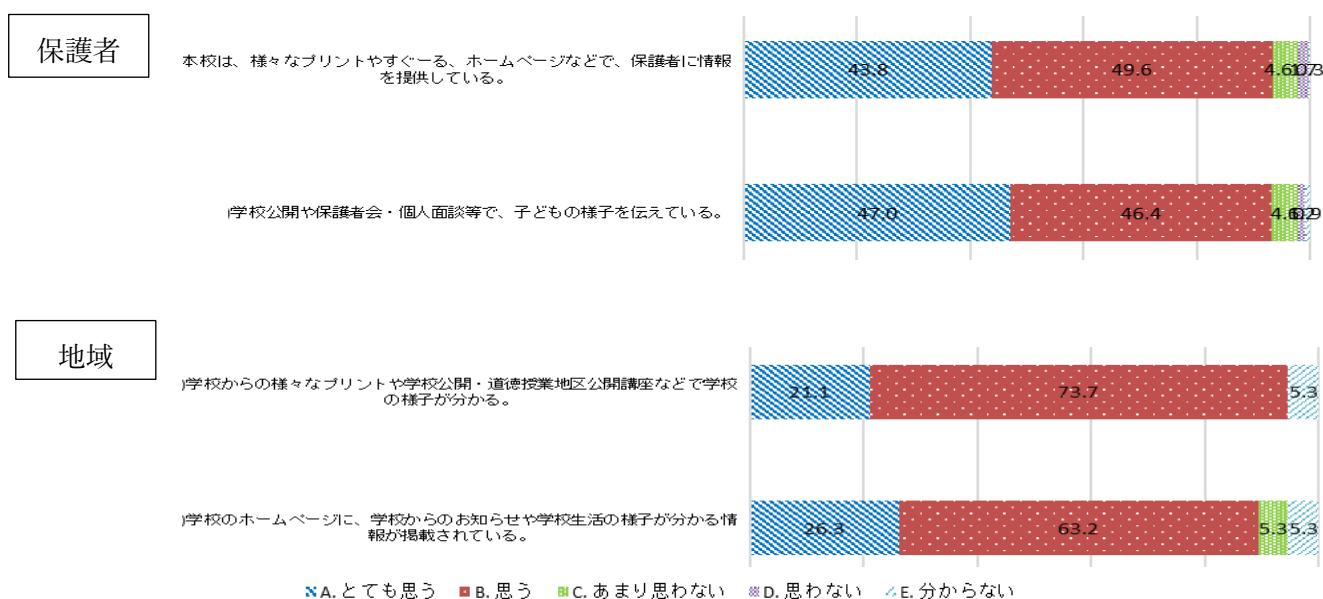
【信頼と誇りをもてる学校づくり】

1 保護者・地域との連携

(成果)

「本校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」「本校は、地域の活動などに協力的である」というアンケートには、80%近くの保護者や地域の方々が肯定的な回答をしてくださった。今年度もそしがや夏祭り、そしがやふるさとフェスティバル、地域清掃やもちつきなど、本校の教員が子どもたちと一緒に参加する姿を評価していただけたのだと考察する。

また、本校の教育活動をホームページやすぐーる、学級だより等の紙面で積極的に情報発信を行った結果、アンケート結果では「学校の様子が分かる」「学校の様子が分かる情報を掲載されている」と回答してくださった割合が保護者の方々からも地域の方々からも90%近くになり、例年になく評価して下さった。



(課題)

今年度は夏祭りの時期を9月に移したり、そしがやかるた大会の日が土曜授業日ではなくなったりと、天候や教員の働き方改革によって日時や実施の方法が例年とは変わることもある。そのため、子どもたちの思いや願いを叶えるべく、今後もより一層本校は地域との連携や打ち合わせを密にしていく必要があると痛感している。

2 学校運営及び教職員

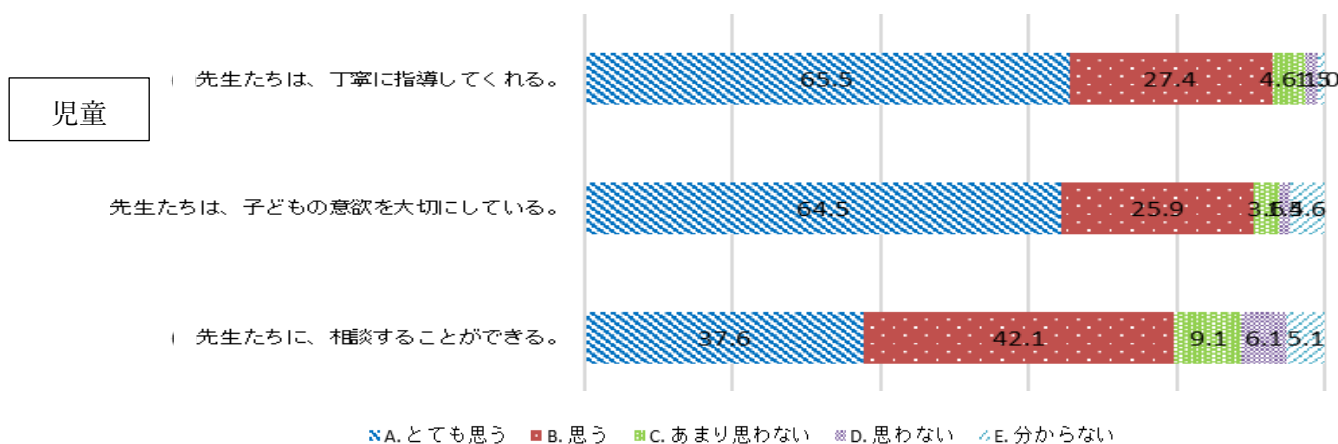
(成果)

今年度は働き方改革を大幅に進めた。区からの指示により「振替休業日のない土曜授業日を廃止」し、国で定めた「標準授業時数を基準とした授業時数」とした。本校は昨年度まで、標準授業時数よりも大きく上回る授業

時数を実施していたので、月曜日を全学年5時間授業にするなどの時数の削減を行った。また、会議の精選やオンライン会議の導入など、教員がより効率的に自分の時間を活用できるようにした。

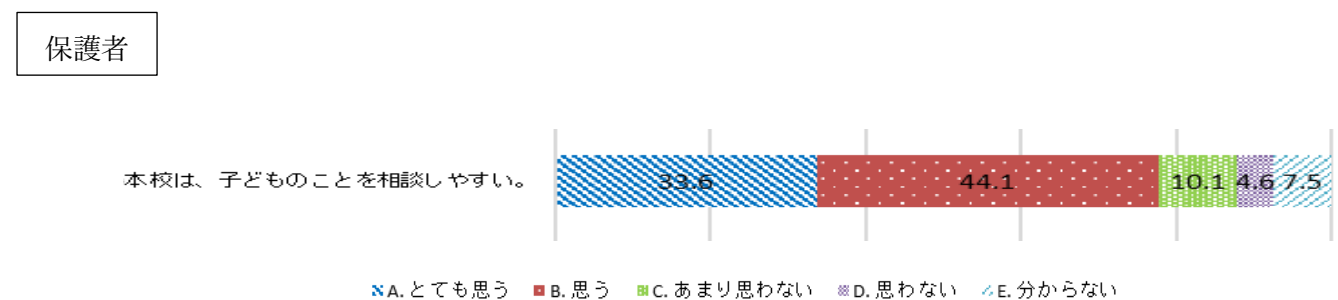
その結果、教員からも「時間的な余裕ができた」「他の教員と授業に関する研究を行う時間をとれた」という声があがっている。また、教員同士で授業を参観し合い、研鑽することも習慣化されてきた。

また、子どもたちと対話する時間の確保もでき、それは教員の児童理解が進むことにつながるとともに、教員が子どもたちからの信頼を得ることにもつながった。アンケート結果においても子どもたちは、先生たちは「丁寧に指導してくれる」「子どもの意欲を大切にしている」「相談することができる」と回答した数値はとても高かった。



(課題)

教員が子どもたちと過ごす時間が増える一方で、保護者が子どものことについて教員と相談する機会をもう少し増やしていかなければならない。保護者アンケートの項目「本校は子どものことを相談しやすい」に肯定的な回答をしたのは80%に届かず、低い数値となっている。



3 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

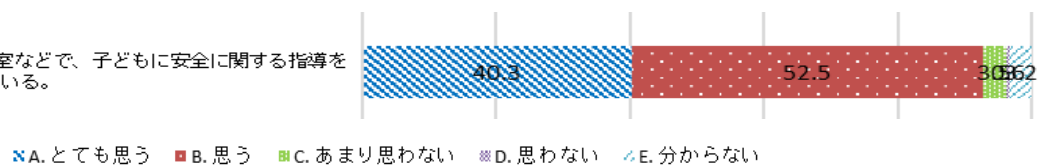
(成果)

本校では月に一度安全点検を実施し、危険箇所や破損している物品があればすぐに気付くことができるようにしている。また、安全指導計画に従い、子どもたちへの指導も行っている。中でも、保護者の皆様からは避難訓練やセーフティ教室などで、子どもたちに安全に関する指導をしていることに関して高い評価をいただいた。

今年度の途中から西門の電子錠化が始まり、子どもたちが登校している間のセキュリティを強化した。夏休みには本校で近隣の学校の教員とともに防犯訓練を実施し、防犯意識を高めることができた。

保護者

本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。

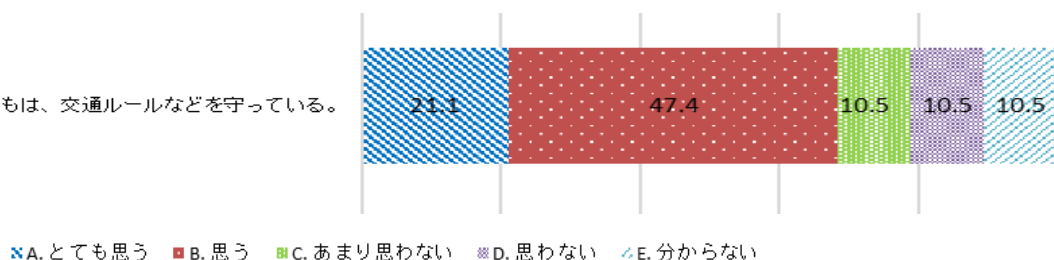


(課題)

地域の方々へのアンケート項目「通学している子どもは、交通ルールを守っている」に肯定的な回答をしたのは70%程度だった。昨年よりも数値はよくなったのだが、今後も地域や保護者と連携して、子どもたちの交通安全指導を徹底していく必要がある。

地域

通学している子どもは、交通ルールなどを守っている。



III 令和8年度の重点目標と具現化のための方策

1 課題意識をもって考え、自分の考えを表現できる子どもの育成

(1) キャリア・未来デザイン教育を推進する。

急激に変化する社会の中で、子ども一人一人が社会の担い手として、自らが課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成する。そのために「キャリア・パスポート」を作成し、自己を振り返ったり、新たな目標を設定させたりして、チャレンジする力を育てる。

(2) 課題を追究、解決する探究の過程を大切にする。

主体的な学びを推進するために、児童が学ぶことに興味や関心を持ち、課題を見だし、解決の方法を考え、協働して学び、学習活動を振り返り次の学習につなげられるような探究の過程を大切にす

(3) 教育DXを推進する。

タブレット端末を活用した授業を推進する。リモート授業及びデジタル教材を使った課題解決学習や探究活動、学習用クラウド「ロイロノート」等での考えの交流、AIドリル「キュビナ」での学習の深化、家庭学習での活用を推進する。また、「活用、自律・行動規範」となるデジタル・シティズンシップを身に付けさせる。

(4) 学校図書館と連携を図る。

図書館司書、PTAと連携し、各教科や総合的な学習の時間などで学習に必要な学校図書館や各教室の文献、資料を充実させる。

(5) 教科担任制や交換授業を取り入れる。

中・高学年に一部教科担任制や交換授業、低学年においても交換授業を取り入れることで、より専門的で質の高い学習を行う。また、複数の教員による多面的な児童理解を通して、児童の心の安定を図る。

(6) 本物に触れる授業を取り入れる。

地域人材等のゲストティーチャーを積極的に招き、話を聞いたり、体験活動を行ったりする。また、実物を調達したり、見に行ったりする直接体験を大切にす

(7) 朝のモジュールの時間を効果的に活用する。

8:25～8:40に短時間授業を実施し、児童の学びを深める。

2 互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成

(1) 道徳教育の充実を図る。

教育活動全体を通じて道徳性を養う。特に生命を大切にする心、思いやりの心、規範意識の醸成を図り、自分たちの生活場面を話し合い、実践する力を育てる。

(2) インクルーシブ教育を推進する。

多様な個性を認め合い、相手を尊重し、共に学び共に育つインクルーシブ教育を推進する。そのために環境整備や合理的配慮によるサポートを行う。

(3) いじめ防止教育を推進する。

いじめ防止教育年間計画を基に年間を通していじめ防止教育を推進する。特に年3回の「ふれあい月間」には学校生活アンケートを実施し、気になる子には面談を実施する。いじめは早期発見に努め、組織で対応し早期解決を図る。

(4) 交流活動を大切にす

異年齢集団による交流や通常の学級と特別支援学級との交流、幼保との交流、中学生との交流、地域の方々とのふれ合い等の活動を通して、互いに認め合い学び合う態度を育て、温かい人間関係を深める。

3 自分の健康や体力に関心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

(1) 体力向上の取組を行う。

体力向上を目指し、体力向上旬間を設定したり、体力向上カードを用いたりして短なわ、長なわ、ペースランニング、祖師谷エクササイズに積極的に取り組む。

(2) 体育施設を有効活用する。

日常的に運動に親しめる環境を整備する。豊富な固定施設、広い校庭、体育館や屋上といったスペースを有効活用する。また、体育用具の充実や魅力的な運動の場づくりを通して児童の運動欲求を充足させる。

(3) 健康教育を推進する。

養護教諭、栄養士が中心となり、保健教育と食育の充実を図る。学校保健委員会を実施し、児童の健康について保護者とも連携を図る。

IV まとめ

令和7年度は生活時程を大幅に変え、子どもたちにとっても教職員にとってもゆとりのある学校生活を送ることができました。そのおかげで教職員は子どもたちと向き合う時間が増え、良好な信頼関係を築けていることがアンケート結果からも分かります。また、保護者や地域の皆様からのご支援ご協力をいただき、子どもたちが充実感を得られるような学校づくりができました。本校の教育活動に深いご理解と励ましをいただいたことに感謝しています。

アンケートにおいて評価が低かった項目や「わからない」という回答が多かった項目については、関係者評価委員会の見解を踏まえながら検討し改善を図ってまいります。

今年度も時程の変更や、行事の内容の変更、日程調整など、様々な面で昨年度と変更した部分がありました。しかし、保護者、地域のご理解ご協力とサポート等によるご支援、また、ご指導ご助言をいただきながら滞りなく一年間の教育課程を修了することができました。本当にありがとうございました。「全ての子どもたちが充実した学校生活を送ることができるように」を合言葉に、本校はこれからも保護者・地域とも課題を共有し、「チーム祖師谷」として一丸となって教育活動を進め、よりよい学校づくりをして参ります。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。